

# ～あなたの子牛、元気ですか！？～ 哺育たよい

## 第5号

### 哺育牛の施設を見直そう～カーフハッチの活用～

搾乳牛舎の片隅でつながれている哺乳期の子牛をよく見かけます。搾乳牛舎や密閉された場所で飼養されると換気状態が悪いため、呼吸器病や下痢にかかってしまいます。

哺乳牛管理で重要なのは ①新鮮な空気、②隙間風の防止、③強風にさらさない、④適度な気温、⑤乾いた敷料の供給です。今月は子牛間の接触感染を防ぐためのカーフハッチの活用法について考えてみます。

#### カーフハッチについて

カーフハッチの大きさは、長さ2,400mm、幅1,200mm、高さ1,200mmとする。空間に余裕があれば、長さ1,800mm、幅1,200mm、高さ1,200mmのワイヤフェンスで囲んだ運動場を設置しましょう。ハッチ後部に空気の取入口を付けて夏は換気をします。ハッチを並べて設置する場合は間隔を1,000mm以上開けて牛同士が接触しないようにしましょう。

また、ハッチは南向きか東向きに設置して、冬期間の季節風や夏の日中の太陽が入り込まないようにしましょう。設置場所は排水の良好な場所にして、敷料を十分に用いて清潔で乾燥した環境を保ちましょう。厳冬期は管理作業を簡単にするために、換気を良好にしたパイプハウスの中にハッチを設置しても良いと言われています。子牛を出した後のハッチは移動して洗浄・殺菌をお忘れなく。



ハッチが並ぶ風景 すごいですね！



パイプハウス内に設置されたハッチ

#### ポイント

- 清潔で乾燥した環境を！
- 排水の良い場所に設置！
- 南向きか東向きに設置！

子牛をホコリ・雑菌や、  
アンモニア から守り  
冬でも元気に育つ環境を  
整えよう！

#### 編集後記

12月、本格的な冬がやってまいりました。寒さを防ぐため、牛舎の周囲にビニルシートを張ったり、窓を閉め切ると肺炎の原因となります。昼の暖かい時間に外の空気を積極的に牛舎内に取り込み、湿気を取除くなど、換気を行いましょう。また、ある地域では子牛の臍帯炎が多発しています。分娩時から生後3日間、臍の緒は必ず消毒しましょう。来月も引き続きカーフハッチの重要性を取り上げます。

オリオン パスチャライザー

# MAM(マム)シリーズ ご紹介



**MAM12A(12ℓ)**



**MAM30(15ℓ×2缶)**

## MAM(マム) 初乳・移行乳加熱装置

「マム」は、初乳に含まれる牛白血病ウイルス、ヨーネ菌、サルモネラ菌、大腸菌などを60℃30分の加熱でシャットアウトし、移行抗体である免疫グロブリンや、タンパク質をきれいな状態で子牛に給与するお手伝いをします！**加熱による初乳の「免疫グロブリン」は死滅しません！！**

## ●発酵乳を作るのに「マム」を使っていると聞いたけど本当！？ どうやって発酵乳を作るの！？

初乳や移行乳の発酵乳を子牛に給与している酪農家さんも多いのではないのでしょうか。

とある酪農家さんは、オリオンパスチャライザー「マム」を使用する前は、乳を殺菌していなかったために残存菌の影響で臭いがある、酸っぱい、変質などがあり安定した発酵が出来ませんでした。

その後、「マム」を用いて乳を殺菌してからヨーグルト菌を添加すると、失敗の少ない、保存が可能で安定した品質の発酵乳が作ることが出来たとご報告をいただきました。

